

平成22年度 一般会計予算。 各特別会計予算

定例会初日に各予算議案を審査するため、一般会計及び特別会計の各予算特別委員会が設置され、一般会計は3月2日から4日までの3日間、特別会計は3月5日に審査が行われました。

定例会最終日には、斎藤一夫一般会計予算特別委員長と斎藤貴亮特別会計予算特別委員長がそれぞれ審査報告を行い、採決の結果、平成22年度一般会計、同補正予算(第1号)及び後期高齢者医療特別会計の各予算議案が賛成多数で、老人保健会計等3つの特別会計の各予算議案が全会一致で可決されました。

なお、国民健康保険事業特別会計及び同補正予算(第1号)は賛成少数で否決されたため、暫定予算が提出され、可決されました。(3面に「議案に対する各会派の賛否」を掲載)

市長から行われた提案説明の概要と、一般会計予算に対する各会派(無会派を除く)の討論の要旨は以下のとおりです。

平成22年度予算総額				
(単位:千円、%)				
	22年度 予算額	21年度 予算額	伸び率	
一般会計*	54,182,081	50,120,449	8.1	
特別会計	国民健康 保険事業	3,603,440	16,592,000	—
	老人保健	10,013	30,100	△66.7
	後期高齢 医療保険 事業	2,867,200	2,735,800	4.8
	介護 事業	8,518,300	8,080,200	5.4
	水道 事業	4,655,000	5,040,700	△7.7
合計	73,836,034	82,599,249	—	

*平成22年度一般会計予算額は当初予算額539億9,200万円に補正予算額(第1号)の1億9,008万1,000円を加えた額
*平成22年度国民健康保険事業特別会計予算額は暫定予算のため、伸び率は合計欄を含め記載していません。

【一般会計】

平成22年度予算は市民サービスの継続性や安定性に配慮し、引き続き①市民活動支援・市民参加の一層の推進、②計画に基づく諸事業の着実な推進、③行財政の再構築の3点に重点を置き、7つの主要な事業を柱立てにして予算を編成しました。

予算総額(補正予算第1号を含む)は541億8千2百8万1千円で、前年度に比べ、8.1%、40億6千63万2千円の増となっています。

〔後期高齢者医療特別会計〕
〔歳入〕保険料と一般会計繰入金などが主なものです。
〔歳出〕広域連合へ納付する負担金のほか、保健事業に要する経費などを計上しています。

後期高齢者医療の対象者数は、東京都全体で約18万人、小平市は前年度に比べ、約1千人増の1万7千人を見込んでいます。

〔介護保険事業特別会計〕
予算総額は85億1千8百30万円で、前年度予算に比べ5.4%の増です。

〔歳入〕保険給付等に充てるため、法定負担である国庫・都支出金、一般会計からの繰入金等、また、介護従事者処遇改善臨時特例基金からの繰入金等を計上しました。

〔歳出〕保険給付費を、予算総額の94.3%に当たる約80億2千8百75万円と見込むほか、介護保険事業の運営に要する経費等を計上しました。

〔下水道事業特別会計〕
予算総額は46億5千5百万円で、前年度予算に比べ7.7%の減です。
〔歳入〕下水道使用料は、前年度に比べ2.5%の減を見込みました。

〔歳出〕雨水及び汚水の整備事業費、下水道管線の耐震対策費、公共下水道施設の維持管理費、起債の償還金として公債費などを計上しました。

一般会計予算に対する 各会派の討論

要旨

各会派の討論

反対

国民健康保険税引き上げの経緯に透明性がない点を指摘

平成22年度予算に賛成できない理由を以下に述べる。①不況に苦しみ多くの市民を目にし、ただでさえ負担感の強い国民健康保険税の引き上げである。市長は当初案の11.3%から引き上げ案を3回も変更したが、その経緯に透明性が見えず、数字に正統性がない。②相変わらず低い建設事業費は多摩26市中下位であり、町の活力をつけるには不十分と指摘する。③敬老金の削減と金婚記念品を廃止したことは情のない市長と言われている。④市史編さんにも仕方がない。⑤市史編さんに2億円投入する必要はなく、市民生活の厳しい折、税金の投入

市民生活に直結した必要不可欠な事業の展開を評価

市民生活に直結した必要不可欠な事業が盛り込まれている点を評価し、本予算に賛成する。子どもたちの安全を守る意味で小・中学校の大規模改造工事、公立保育園の耐震診断、トイレ環境整備、エアコン設置等は重要かつ必要な事業計画である。次世代育成では学童クラブ室の新設・改修、子ども広場事業の拡大、放課後子ども教室事業の拡充には大いに期待する。健康福祉では女性特有のがん検診のためのクーポン券の補助等の計画、小規模多機能型居宅介護事業所の開設も評価したい。教育ではスクールソーシャルワーカーの配置や、小学校全校の第1学年へのティーチング・アシスタントの配置は、小1プロブレム等への対応として時宜にかなった事業である。また、学校図書館への相談員等の配置、地域住民の強い要請である仲町公民館・図書館の建てかえのため、基本設計も期待が大きい。都市基盤関係では鷹の台駅構内の整備計画、地下通路のバリアフリー工事の着手は利用者の喜びである。要望として、市民の生命と生活を守る市長の責任は重く、大胆な発想とイニシアチブで改革を進めてもらうことを申し添え、賛成討論とする。

賛成

市民の安心に資する施策を評価

本予算は厳しさを増す財政状況の中、3点に重点を置いて編成されていると認識した。第1は市民活動支援・市民参加の一層の推進である。市民協働により新しい公共を創出するいきいき協働事業が盛り込まれている。また、従来の枠にとられない自治体を築く基盤整備が必要で、市民活動支援センターの開設も自治基本条例の理念を現実にするために必要不可欠な施策である。第2は計画に基づく諸事業の着実な推進で、前期総合計画に盛り込まれた33事業のうち実施済み18事業、実施中12事業、平成22年度中の対応予定が3事業と

賛成

自治基本条例の精神が生かされるよう期待

景気低迷は予算においてもシビアな現実として数字にあらわれているが、扶助費の増加などは市民感覚として受け入れられる。財政運営として厳しい局面にあることは否めないが、市債や基金は明らに要因のない今こそ活用が必要である。市民が行政と対立するのはなく、対話型の関係性を築き、ともに課題から目をそらさず冷静に解決策を見出すことが必要である。目に見えない日常業務での市の姿勢においても、自治基本条例の精神が生かされることを期待して本予算に賛成する。賛成に当たって要望を添える。協働について、新しい発想を取り入れなければならない。新しい発想を取り入れなければならない。この豊かな地域社会を築くことができないという現実のもとに立ち、仕事の仕方を変えていってほしい。民間や市民力の活用はコスト削減でなく専門性やニーズ対応の確実性、柔軟性にある。公契約条例、調達の方針の策定や入札の総合評価制度の導入など、雇用をチェックする仕組みを早急に検討し、一方向的な行政からの説明だけでなく、事業のあり方を市民と協議し、新しい公共サービスをつくり上げていくよう要望を申し添え、賛成討論とする。

賛成

市民の願いに対し財政が厳しい中での前進を評価

賛成理由の第1は市民の暮らしと福祉を守る施策で一定の前進があったことである。高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定や小規模多機能型居宅介護施設建設の支援、女性特有のがん検診の実施、不況対策融資の延長、農業振興などの前進が図られたことを評価する。第2は子育てや教育で、学童クラブの新設や改修を行うほか、虐待防止のための子ども家庭支援センターの拡充、市認定保育室から都認定保育所への移行支援で存続を守ったこと、ティーチング・アシスタントの全

校配置などを評価する。第3は安全、便利で住みやすいまちづくりで、小川駅西口再開発事業、鷹の台駅のバリアフリー化、にじバス、コミュニティタクシーの運行等、市民参加と協働でここまで至った努力を評価する。第4は市民参加と協働を広げること、自治基本条例の具体的な推進を一步進めるものとして期待する。第5は小平市非核平和都市宣言の具体的な事業を一步前に進めたことである。核廃絶に向けての具体的な行動を期待する。なお、見直すべきこととして、第2次行財政再構築プラン策定では市民参加型の観点から行うよう申し述べ、賛成の討論とする。

市議会公明党

賛成

政和会

反対

市民生活に直結した必要不可欠な事業の展開を評価

市民生活に直結した必要不可欠な事業が盛り込まれている点を評価し、本予算に賛成する。子どもたちの安全を守る意味で小・中学校の大規模改造工事、公立保育園の耐震診断、トイレ環境整備、エアコン設置等は重要かつ必要な事業計画である。次世代育成では学童クラブ室の新設・改修、子ども広場事業の拡大、放課後子ども教室事業の拡充には大いに期待する。健康福祉では女性特有のがん検診のためのクーポン券の補助等の計画、小規模多機能型居宅介護事業所の開設も評価したい。教育ではスクールソーシャルワーカーの配置や、小学校全校の第1学年へのティーチング・アシスタントの配置は、小1プロブレム等への対応として時宜にかなった事業である。また、学校図書館への相談員等の配置、地域住民の強い要請である仲町公民館・図書館の建てかえのため、基本設計も期待が大きい。都市基盤関係では鷹の台駅構内の整備計画、地下通路のバリアフリー工事の着手は利用者の喜びである。要望として、市民の生命と生活を守る市長の責任は重く、大胆な発想とイニシアチブで改革を進めてもらうことを申し添え、賛成討論とする。

市民生活に直結した必要不可欠な事業の展開を評価

市民生活に直結した必要不可欠な事業が盛り込まれている点を評価し、本予算に賛成する。子どもたちの安全を守る意味で小・中学校の大規模改造工事、公立保育園の耐震診断、トイレ環境整備、エアコン設置等は重要かつ必要な事業計画である。次世代育成では学童クラブ室の新設・改修、子ども広場事業の拡大、放課後子ども教室事業の拡充には大いに期待する。健康福祉では女性特有のがん検診のためのクーポン券の補助等の計画、小規模多機能型居宅介護事業所の開設も評価したい。教育ではスクールソーシャルワーカーの配置や、小学校全校の第1学年へのティーチング・アシスタントの配置は、小1プロブレム等への対応として時宜にかなった事業である。また、学校図書館への相談員等の配置、地域住民の強い要請である仲町公民館・図書館の建てかえのため、基本設計も期待が大きい。都市基盤関係では鷹の台駅構内の整備計画、地下通路のバリアフリー工事の着手は利用者の喜びである。要望として、市民の生命と生活を守る市長の責任は重く、大胆な発想とイニシアチブで改革を進めてもらうことを申し添え、賛成討論とする。

自治基本条例の精神が生かされるよう期待

景気低迷は予算においてもシビアな現実として数字にあらわれているが、扶助費の増加などは市民感覚として受け入れられる。財政運営として厳しい局面にあることは否めないが、市債や基金は明らに要因のない今こそ活用が必要である。市民が行政と対立するのはなく、対話型の関係性を築き、ともに課題から目をそらさず冷静に解決策を見出すことが必要である。目に見えない日常業務での市の姿勢においても、自治基本条例の精神が生かされることを期待して本予算に賛成する。賛成に当たって要望を添える。協働について、新しい発想を取り入れなければならない。新しい発想を取り入れなければならない。この豊かな地域社会を築くことができないという現実のもとに立ち、仕事の仕方を変えていってほしい。民間や市民力の活用はコスト削減でなく専門性やニーズ対応の確実性、柔軟性にある。公契約条例、調達の方針の策定や入札の総合評価制度の導入など、雇用をチェックする仕組みを早急に検討し、一方向的な行政からの説明だけでなく、事業のあり方を市民と協議し、新しい公共サービスをつくり上げていくよう要望を申し添え、賛成討論とする。

市民の安心に資する施策を評価

本予算は厳しさを増す財政状況の中、3点に重点を置いて編成されていると認識した。第1は市民活動支援・市民参加の一層の推進である。市民協働により新しい公共を創出するいきいき協働事業が盛り込まれている。また、従来の枠にとられない自治体を築く基盤整備が必要で、市民活動支援センターの開設も自治基本条例の理念を現実にするために必要不可欠な施策である。第2は計画に基づく諸事業の着実な推進で、前期総合計画に盛り込まれた33事業のうち実施済み18事業、実施中12事業、平成22年度中の対応予定が3事業と

市民の願いに対し財政が厳しい中での前進を評価

賛成理由の第1は市民の暮らしと福祉を守る施策で一定の前進があったことである。高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定や小規模多機能型居宅介護施設建設の支援、女性特有のがん検診の実施、不況対策融資の延長、農業振興などの前進が図られたことを評価する。第2は子育てや教育で、学童クラブの新設や改修を行うほか、虐待防止のための子ども家庭支援センターの拡充、市認定保育室から都認定保育所への移行支援で存続を守ったこと、ティーチング・アシスタントの全